

平成 20 年度

## 「学生地域参画プロジェクト」報告書

茨城大学長 殿

① 代表者	所属・学年	人文学部 2年
	ふりがな	かんだつ ゆき
	氏名	神立 由希

本年度交付を受けた支援経費について、下記のとおり報告いたします。

<b>②プロジェクト名</b>
ライフセービング普及のためのジュニア教育プロジェクト
<b>③活動分野</b>
<input type="checkbox"/> 1 教育・研究 <input type="checkbox"/> 2 ボランティア <input type="checkbox"/> 3 課外活動 <input type="checkbox"/> 4 地域交流 <input type="checkbox"/> 5 国際交流 <input type="checkbox"/> 6 その他
<b>④プロジェクトの地域連携先</b>
大洗町 大洗サーフライフセービングクラブ
<b>⑤プロジェクトの実施概要</b>
<p>(1) プロジェクトの概要</p> <p>このプロジェクトは大洗町と大洗サーフライフセービングクラブと連携し、ジュニア教育プロジェクトを行います。このジュニア教育プロジェクトとは、大洗町を中心とした地域の子供たちにライフセービングの知識を普及させ、夏の海水浴場遊泳期間中や、日々の生活の中での水辺の事故ゼロを目指す活動です。</p> <p>連携先である大洗サーフライフセービングクラブでは、以前からユニバーサルビーチ“年齢、性別、身体の障害の有無に関係なく、誰もが楽しく安全に楽しむことができるビーチ”を目指して活動し、活動の拠点である大洗サンビーチを関東最大級の安全な海水浴場として、監視活動を行ってきました。昨年（平成 19 年）には、このユニバーサルビーチの概念が認められ、バリアフリー化推進功労者として内閣府特命担当大臣表彰奨励賞を受賞したクラブです。私たち茨城大学 S L S C は、このユニバーサルビーチという発想をより多くの人々に知ってもらいたいと考え、今回ジュニア教育プロジェクトを行うことにしました。このプロジェクトを通して子供たちにライフセービングの知識を教えることで、人の命の重さ、人命救助の大切さ、自然の中で遊ぶことの楽しさ、自然の偉大さを感じてほしいと考えています。</p> <p>(2) 連携の方法・内容</p> <p>このプロジェクトをするにあたり、私たちはまず大洗サーフライフセービングクラブの活動に参加し、夏の遊泳期間中にパトロール活動を行います。そのパトロール活動の中で、大洗町観光課の方に協力してもらい、大洗町の小、中学校（大洗小、南中、大洗一中など）にライフセービング体験学習の呼びかけをします。体験学習に参加してくれた子供たちには、実際にライフセーバーの体験をさせたり、海の知識を教えたりして、水辺の事故防止を呼びかけます。</p> <p>近年、子供たちの運動能力の低下や、外遊びを知らない子供たち、テレビゲームなどによる命の軽視化などの問題がさげばれています。このライフセービング体験学習を通して、子供たちには命の大切さ、自然の偉大さ、生きることの喜びを感じてもらいたいと考えています。このプロジェクトに参加する者は皆、ライフセーバーとして資格をもっているのです、正しい知識を教えることが出来、かつ子供たちの安全面にも配慮した体験学習を行うことが出来ます。</p> <p>また、この活動を通して、大洗サンビーチを広く人々に知ってもらい、大洗町の観光スポットの活性化にも役立てたら、と考えています。</p>

## ⑥プロジェクトの成果

### (1) プロジェクトの概要

このプロジェクトは大洗町と大洗サーフライフセービングクラブと連携し、大洗近隣地域の子供たちを中心にライフセービング普及のためのジュニア教育を行うというものです。このジュニア教育の目的は

1. 子供たちの身の回りでの水辺の事故をなくす
2. ライフセービングの知識を得て、命の大切さ、人命救助の大変さを感じてもらう
3. 関東最大級の海水浴場（大洗サンビーチ）のPR

以上の目的をもって今回このプロジェクトに取り組ませていただきました。

大洗サーフライフセービングクラブでは、以前から「教育事業」としてジュニア教育を行ってききましたが、監視活動に影響を与える為、教育事業にレスキューボードなどを使うことができず、ボディボードやカヤックなど遊具中心の‘海を親しむ’ことを目的とした教育しか出来ませんでした。しかし今回、レスキュー機材を導入できたことで、教育の幅を広げることができました。

### (2) プロジェクト計画

2008年に大洗町そして大洗の観光施設から要請があったのは以下の10つです。

- ・アイアンキッズJLS教室 32名
- ・JWWCLS教室 10名
- ・釈迦小ライフセービングプログラム 22名
- ・祝町・夏海小ライフセービングプログラム 73名
- ・磯浜小ライフセービングプログラム 55名
- ・大貫小ライフセービングプログラム 13名
- ・JLS教室（初級）13名
- ・JLS教室（中級）9名
- ・祝町・夏海小ライフセービングプログラム 75名
- ・元気っ子 雨天中止

大洗サーフライフセービングクラブで行っていた教育事業を、私たち茨城大学SLSCはライフセービング普及のためのジュニア教育プロジェクトと変え、ライフセーバーのいる監視塔を見学する、レスキュー機材に触れて人命救助の方法を知ってもらうことを中心としたプログラムを組みました。

### (3) プロジェクト結果

このプロジェクトのメリットは、レスキュー機材を導入したことにより、本格的なレスキュー体験の実施、子供たちを沖（足の届かないところ）まで安全に泳がせる、という幅広い教育が出来るようになったという点と、子供たちがライフセーバーをより身近に感じることで、より地域と密着したパトロールが出来るようになったという点です。しかし、子供たちの人数が多いと、機材が少ないために全員に十分な時間をとって教える事ができませんでした。

今後は、少ない機材を子供たち全員にいきわたるようなプログラムに組みなおす必要があります。

## ⑦プロジェクト参加者（代表者を含む。別紙可）

氏名	所属（学部・学科、大学院・専攻名）	学年
神立由希	人文学部人文コミュニケーション学科	2
岡村賢太	理学部理学科	2
齋藤貴文	理学部理学科	2
上江洲智政	工学部機械工学科	3
久保庭秀和	教育学部情報文化課程	3
林尚志	人文学部社会化学科	3
笛木啓太	人文学部社会化学科	3
八木圭子	教育学部養護教諭養成課程	3
渡辺法広	教育学部国語専修	4

風間悠	教育学部養護教諭養成課程	1
溝越彩乃	教育学部学校教育教員養成課程	1
末松みどり	工学部生体分子機能工学科	1
秋川知恵子	教育学部学校教育教員養成課程	1
玉城伸之介	教育学部学校教育教員養成課程	1
伊藤拓哉	工学部知能システム工学科	1